

平成 24 年度

東京都公立中学校保健体育科研究会授業研究発表会

第 52 回 全国学校体育研究大会東京プレ大会

ダンス分科会

「運動の特性や魅力に応じて体を動かすことの楽しさや喜びを味わい、  
自主的に運動やスポーツを実践しようとする態度を養う体育学習」

平成 24 年 11 月 8 日

東京都公立中学校保健体育科研究会

## 平成 24 年度研究主題

全体主題「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける体育学習」

中学校主題「運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わい、  
自主的に実践する力を身に付ける体育学習」

分科会主題「運動の特性や魅力に応じて体を動かすことの楽しさや喜びを味わい、  
自主的に運動やスポーツを実践しようとする態度を養う体育学習」

東京都公立中学校保健体育科研究会

### 1 主題設定の理由

本年度から新学習指導要領が完全実施となり、各学校では地域や学校の特色を生かした教育活動が行われています。保健体育の改訂の趣旨としては、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容の体系化を図っています。

中学校においては、多くの運動を十分体験させた上で、生徒一人一人が自らに適した運動を選択することができるようにするため、第1学年及び第2学年では、全ての領域を必修化しました。第3学年では、運動の特性に応じて選択のまとまりが示されました。

また、保健体育科の目標では、心と体を一体ととらえることを引き続き重視するとともに、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成」、「健康の保持増進のための実践力の育成」、「体力の向上」の3つの具体的な目標が相互に関連する重要なねらいであることを示している。

東京都公立中学校保健体育研究会では、これまで新学習指導要領の実施に向けた実態調査を行うとともに、発達の段階に応じた指導の在り方や、武道・ダンスの必修化への対応や、球技における各型の有効な指導等について研究を進めてきた。

本年度は、平成 25 年度に東京都で行われる全国学校体育研究発表大会を踏まえるとともに、平成 21 年度に実施した調査結果から指導経験がある教員が少なかった「ダンス」を取り上げ、発達の段階を踏まえ、運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わい、生徒一人一人に豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う指導の在り方を研究し、東京都の教員の指導力向上に資することとした。

特に、生徒が運動やスポーツに対して自尊感情や自己肯定感を高め、自主的に運動やスポーツに関わろうとする態度を養うことを中心に、運動経験が比較的少ない生徒や教員の実態に応じた指導の在り方を次の視点で捉え追究することとした。

- 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成を目指した体育学習の研究
- ダンスの特性や魅力に応じた楽しさや喜びの指導に関する研究
- 生徒の自尊感情や自己肯定感等を高める指導に関する研究

### 2 研究のねらい

- (1) 発達の段階に応じて、ダンスで身に付ける力の整理
- (2) ダンスにおけるカリキュラム開発
- (3) ダンスにおいて高まる力や自己肯定感等の整理と検証

### 3 研究の仮説

教師が、ダンスの魅力や特性を明確にして、運動の知識や技能を身に付ける効果的な指導の工夫、それを活用する学習の工夫及び適切な形成的評価を行うことにより、生徒は運動に対する自己肯定感を高め、自主的に実践する力を身に付けていくことができる。

### 4 研究の内容

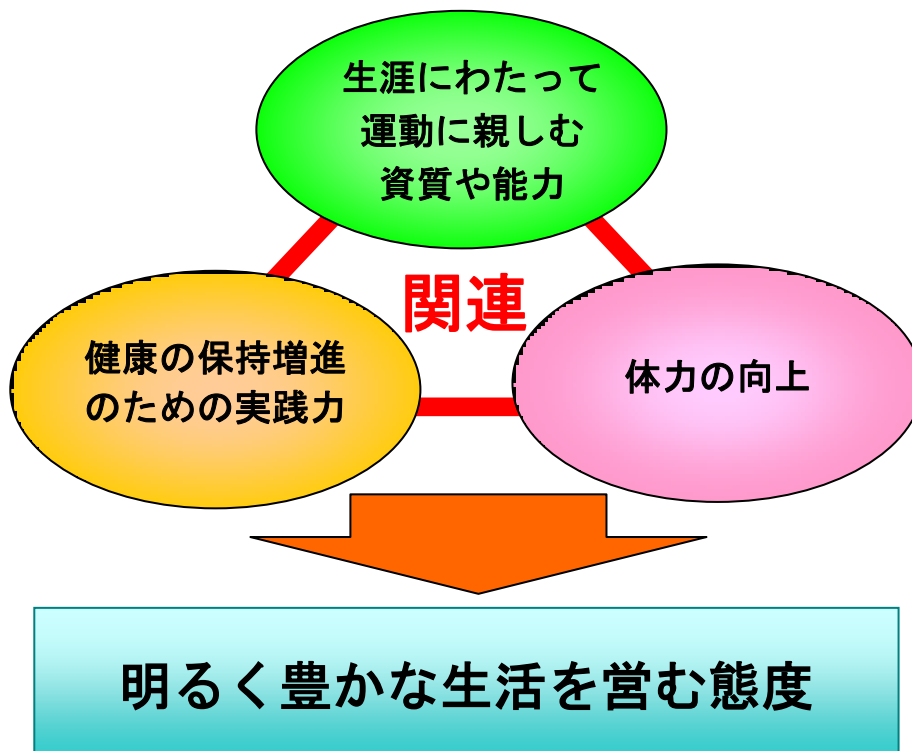
#### (1) 基礎研究

学校教育法第30条2では、教育の目標として、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」ことを示している。

このことから、「基礎的な知識や技能の習得」、「思考力、判断力、表現力等の育成」及び「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」を重視した授業づくりを行うこととした。

また、中学校学習指導要領における保健体育科の目標では、心と体を一体としてとらえ、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てること」と「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」を具体的な方法として示すとともに、その結果として「明るく豊かな生活を営む態度を育てること」を目標として示している。

本研究では、学校教育法に示された教育の目標と、学習指導要領の保健体育科の目標で示された3つの具体的な方法の中の「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」を育てることに焦点化するとともに、生徒の主体的な学習に取り組む態度を養う指導について、カリキュラム開発を進めることとした。



## ア 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさを味わおうとするとともに、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力を示している。

本研究においては、発達の段階に応じて、基礎的な運動の技能や知識を確実に身に付けさせるとともに、それらを活用して自らの運動の課題を解決する学習をバランスよく行う授業づくりを視点として、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けさせる指導の在り方に関する開発研究を行うこととする。

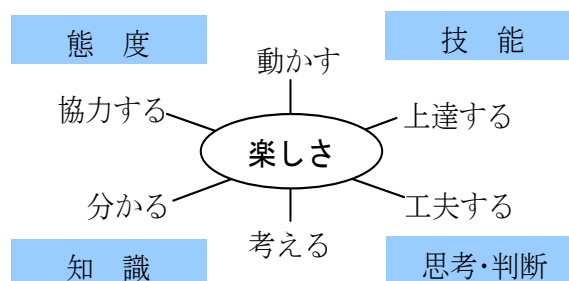
## イ 運動の特性や魅力

中学校段階においては、運動の意義や運動に関する一般原則、運動に伴う事故を防止するなど運動の合理的な実践について知るとともに、運動の特性や魅力に触れて運動の楽しさや喜びを味わわず指導が必要であると捉えた。

それぞれの運動には、技能や動きの様相、攻防の様相などの特性や魅力があり、その特性や魅力に触れて楽しむことは大変重要である。また、運動の技能と体力は相互に関連して高まることを認識させ、それぞれの運動の特性や魅力に触れるために必要となる体力を生徒が自ら高められるようにすることも大切と考えた。

## ウ 運動の楽しさや喜び

本研究における運動の楽しさは、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の視点から、体を動かすことや試合で勝つ、発表する等の機能的特性の側面や、技能や知識が向上するなどの構造的特性の側面など右図の6つに分類して考えた。



また、これらの楽しさの要素は、文部科学省が示す4つの学習状況の観点別評価の項目と関連しており、適切に評価することができると考えた。

## エ 自主的に実践する力

中学校段階は、義務教育修了段階であることから、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」が重要である。

そこで、「自主的に実践する力」を、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力をはぐくみ、生徒が自ら意思決定し行動選択するとともに、探究していく力と捉えた。

指導においては、技能等が上達して行くためには、取り組むべき課題を明確にすること、課題に応じた練習方法を選択すること、繰り返し粘り強く取り組むこと、練習や試合並びに発表などに意欲をもって取り組むことなどが大切であると捉えた。

## オ 自尊感情や自己肯定感を高める指導

自尊感情とは他者との関わりの中で自分が価値ある存在であるにとらえる気持ちであり、自己肯定感とは自分のよさを肯定的にとらえる感情であると捉えた（「自信 やる気 確かな自我を育てるために」平成24年3月 東京都教職員研修センター）。これらは、子供に生きる力を育む上で重要な課題であり、授業づくりに重要な要素である。

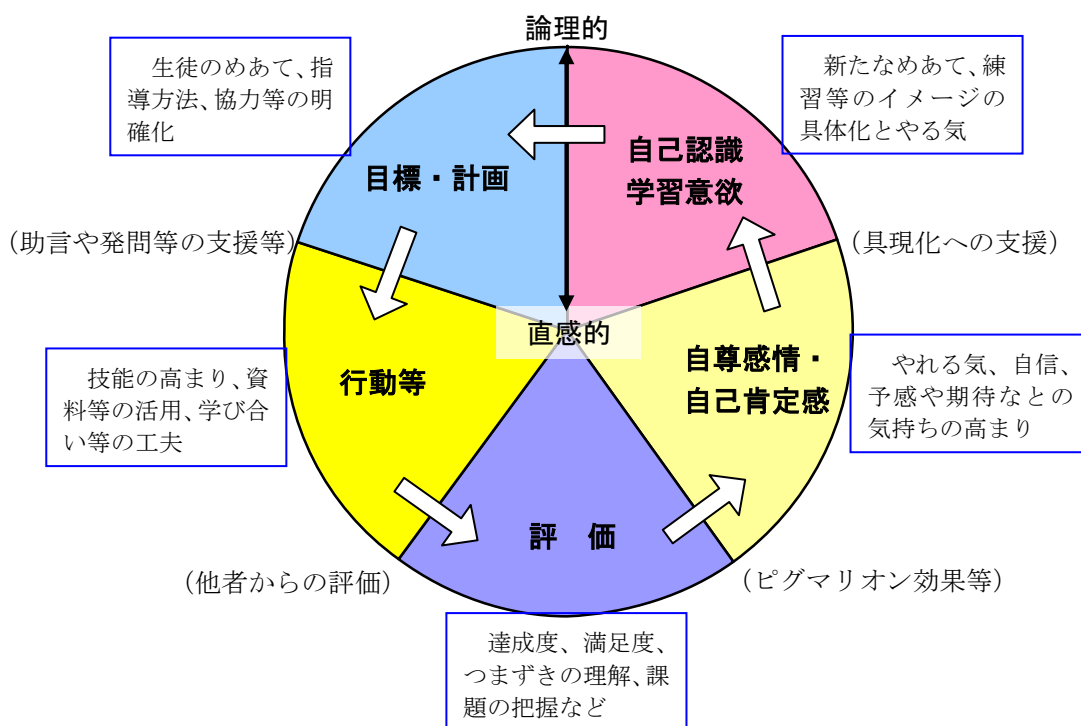
しかしながら、平成20年度の東京都教職員研修センターにおける研究では、中学生の時期になると自尊感情や自己肯定感が低下するという報告がある。自尊感情や自己肯定感、生徒自身の自己評価の結果であり、自尊感情や自己肯定感が高まる自己評価能力を身に付けることが重要である。

安彦忠彦は、自己評価能力を高める視点として次の5点をあげている。①幼児から常に自分の助言を見直し振り返らせるようにする。②自己評価による自信の創出に努める。③自己評価の甘さや辛さが認められたら客観的な評価を対置して示す。④何か1つ「めあて」となるものを決めさせ、それに向かって個人的な努力を尽くさせ、それを個人内絶対評価するようなプログラムをもたせる。⑤「個別的自主学习」の方向に向けて全ての教育を計画化する（「自己評価」安彦忠彦）。

本研究では、目標をもち、計画的し、行動等を行い、評価するという学習の過程において、自尊感情や自己肯定感を高めることによって、運動やスポーツに関わるよりよい自分を認識し、学習意欲を高め、自主的に学ぶ力が身に付いていくと考えた（下図）。また、これらの学習のサイクルは、短時間である直感的なものから、深い思考を必要とする論理的なものまで、学びの内容によって様々あると考えた。

この考え方を踏まえ、生徒が自ら課題を発見し解決していく学習を経験できる体育学習を開発していく。

自尊感情等を高めて自主的な学びにつなげる学習のサイクル



さらに、東京都教育委員会は、「東京都教育ビジョン（第2次）」の中で、「子供の自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実」を推進計画に位置付け、平成20年度から5ヵ年計画で研究を進めている。

その研究によると、自尊感情を高める指導における視点としては、①自分のよさを発見するとともに、自分のよさを認めるなどの「自己評価・自己受容」と、②人との関わりを通して、互いの存在の大切さに気付くなどの「関係の中での自己」、③今の自分を受け止め、自分の可能性について気付く等の「自己主張・自己決定」の3つと考えられている。

本研究では、これらの3つの視点について、体育学習の流れの中で行う指導のポイントを次のように考えた。

### 自尊感情や自己肯定感を高める指導のポイント

自尊感情を高める視点	導 入	展 開	ま と め
自己評価・自己受容	自分の長所の生かし方や努力で成長することを知る。	自分で取り組んだ成果を発揮できる場を設定する。 他人の考え方や努力したことを認め合う。	自分の思いで取り組んでいることを認める。 自分の長所や成長したことに気付く。
関係の中での自己	仲間が存在が学習を充実させることや、助け合って一人一人が成長することを知る。	様々な考え方があることや仲間が努力していることに気付く。 自分のために助言をしてくれる人がいることに気付く。 ルールやマナーを自主的に守って行動する。	自分の行動が仲間の役に立っていることや、仲間のことを考えて工夫して活動したことに気付く。
自己主張・自己決定	自分の長所や短所を知り、自分で決めたことを最後までやることの大切さを理解する。	自分で決めたことを最後まで粘り強く取り組む。 自分の長所や短所を受け止め、他者との比較ではなく、自分らしさを伸ばしている。	自分で粘り強く取り組んだことや成長に気付く。 自己のよさをさらに伸ばす次の目標を考える。

(2) 授業研究

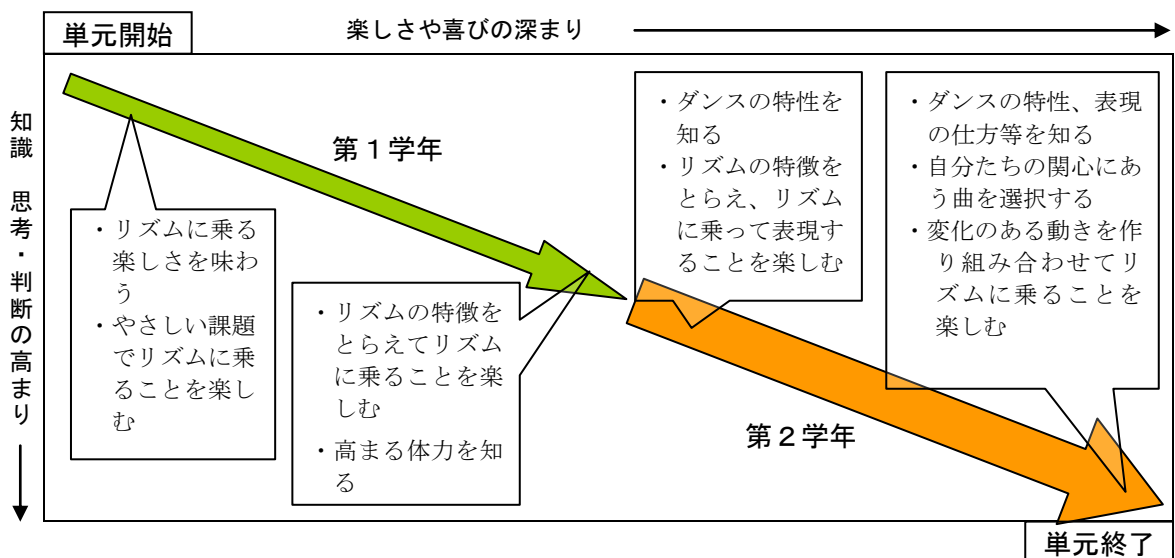
ア ダンス等で身に付ける力の整理

ダンス等で身に付ける力の体系化

	小1から小4まで	小5から中2まで	中3から高3まで
指導内の体系化	様々な動きを身に付ける時期	多くの運動を体験する時期	少なくとも一つのスポーツに親しむ時期
運動への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで取り組む。</li> <li>・誰とでも仲良く踊る。</li> <li>・誰とでも仲良く練習や発表をする。</li> <li>・場の安全に気を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に取り組む。</li> <li>・よさを認め合う。</li> <li>・分担した役割を果たす。</li> <li>・健康・安全に気を配る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に取り組む。</li> <li>・互いに共感し高め合う。</li> <li>・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たす。</li> <li>・合意形成に貢献する。</li> <li>・健康・安全を確保する。</li> </ul>
運動についての思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な踊り方を工夫する。</li> <li>・自己の能力に適した課題を見付ける。</li> <li>・練習や発表の仕方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己やグループの課題を見付ける。</li> <li>・課題解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫する。</li> <li>・課題に応じた運動の取り組み方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫する。</li> <li>・グループや自己の課題に応じた動きを継続するための取り組み方を工夫する。</li> </ul>
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽快なリズムに乗って踊ることができる。</li> <li>・軽快なリズムに乗って全身で踊ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの特徴をとらえて、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ることができる。</li> <li>・現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることができる。</li> </ul>
運動についての知識・理解		次のことを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの特性</li> <li>・踊りの由来と表現の仕方</li> <li>・体力の高め方</li> <li>・交流や発表の仕方</li> </ul>	次のことを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスの名称や用語</li> <li>・文化的背景と表現の仕方</li> <li>・体力の高め方</li> <li>・課題解決の方法</li> <li>・交流発表の仕方</li> </ul>

イ ダンスの指導計画

(ア) 2年間の指導計画 (イメージ図)



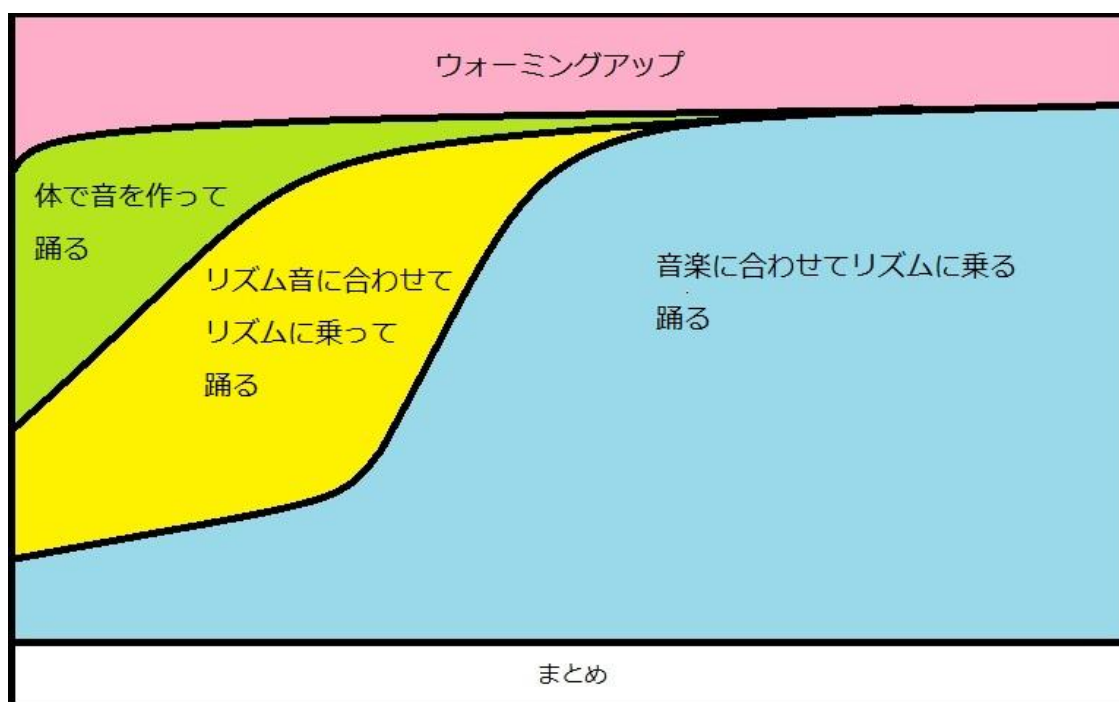
(イ) 第1学年の単元計画の工夫

本研究では、第1学年及び第2学年において、それぞれ9時間のダンスの学習を行うこととし、生徒がダンスの特性に触れて楽しみながら、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けることとした。

第1学年では、1時間目から単元終了まで、仲間とリズムに乗って全身で踊る楽しさを常に味わうことができるよう次の工夫を行った。

- オリエンテーションでは、基礎的・基本的な知識と学習の流れについて理解するとともに、自然にダンスに入れるように心を解放させることに配慮する。
- 毎時間リズムに乗ることを楽しみ、徐々にリズムに乗る難易度が上げられるように指導した。

第1学年ダンスの単元計画イメージ図



(ウ) 第1学年評価計画

観点	具体的な評価規準
① 運動の 関心・ 意欲・ 態度	ア 気持ちよくリズムに乗る雰囲気をつくるために誰とでも気持ちよく活動した。(愛好的)
	イ 仲間とリズムの乗り方を認め合おうとしている。(公正)
	ウ リズムに乗るために仲間の学習を援助しようとしている。(協力)
	エ 分担した役割を果たそうとしている。(責任)
	オ 健康・安全に留意している。(健康・安全)



② 運動について の 思考・ 判断	ア 仲間とリズムに乗ることができる課題を設定している。(体の動かし方)
	イ 仲間と気持ちよくリズムに乗るためリズムに乗る方法を選んでいる。(運動の行い方)
	ウ 学習活動において安全上の留意点を当てはめている。(健康・安全)
	エ 交流の場面で、仲間の良い動きや表現などを指摘すること(運動実践につながる態度)
③ 運動の 技能	ア 簡単な繰り返しのリズムに乗って踊ることができる。(リズムに乗って全身で自由に踊る)
	イ 音楽の表現にあわせてリズムに乗ることができる。(まとまりを付けて踊る)
	ウ 仲間の動きに合わせて、手拍子をするなどリズムに乗ることができる。(発表や交流の様子)
④ 運動について の 知識・ 理解	ア 仲間とリズムを共有してリズムに乗ることが楽しい等、現代的なリズムのダンスの特性について言ったり書き出したりしている。(運動の特性や成り立ち)
	イ 仲間とリズムを合わせて動く、音に合わせてリズムに乗るなど、リズムの楽しい乗り方ことについて言ったり書き出したりしている。(行い方)
	ウ 現代的なリズムのダンスを行うことで、平衡性、筋持久力が高まることについて言ったり書き出したりしている。(関連して高まる体力)
	エ 短い動きや対立する動きを組み合わせるリズムに乗る、音楽の表現に合わせてリズムに乗る等、現代的なリズムのダンスの表現の仕方について言ったり書き出したりしている。(表現の仕方)

## ウ 指導方法の工夫

### (ア) オリエンテーションの充実

ダンスに関する知識とともに、学習の流れや各時間のポイントを理解し、生徒が自主的に学習を行えるよう指導の充実を図る。仲間とのコミュニケーションを豊かにする、簡単な課題でリズムを楽しめるゲームを行うことで、生徒が学習内容を体感し、本單元における学習を具体的にイメージさせるようにする。

### (イ) 学習形態の工夫

学習内容に応じて、クラス全員、グループ、グループシャッフル、グループ増幅、仲間やグループと対応する。(2on2, 4on4, 8on8) などの変化をもたせ、技能や思考力等の向上と創造性の豊かさの育成を目指す。

### (ウ) 準備運動の工夫

十分に技能等が発揮できる体の準備を行うとともに、心を解放すること、仲間との交流を深めることに配慮し、音楽の活用だけでなく、自己や仲間のよさを確認することや声を掛け合うなどの言語活動も取り入れて行う。

### (エ) 言語活動の充実

オリエンテーションやウォームアップにおける運動を伴うゲームの中で、言語活動を取り入れた表現の楽しさを味わわせ、言語に対する関心を高める。動きを作る学習において、互

いのダンスを伝え合う、仲間の作ったダンスを見たり踊ったりするなど、生徒のコミュニケーションを深める学習活動を充実させる。

さらに、ビートを感じ合うことを体験させ、言葉を使ってリズムに乗る質を高めていく。

#### (オ) 自己評価・相互評価の充実

生徒の自尊感情や自己肯定感を高めるために、単元全体を通じて自己や仲間のよさを中心に教え合い学び合うことを指導する。

また、単元のはじめは「自己評価・自己受容」に関すること、単元の中頃には「関係の中での自己」に関すること、単元の終わりには「自己主張・自己決定」に関することを含め総合的に指導する。そして、各時間のまとめとして学習シートに記録し、自己評価を積み重ねていく中で、生徒のダンスに関する自尊感情や自己肯定感を高めていく。

### エ 教材・教具活用の工夫や教材開発

#### (ア) ICT教材の活用

映像化された資料を活用する学習を展開する。また、自らの踊りを映像化し、自分たちで動きをチェックできる工夫を行う。さらに、生徒が踊りづくりに取り組みやすいように、歌なしの音、カウントが入っている音を用意する。

#### (イ) 学習資料、評価カードの開発

生徒が単元全体の見通しや学習内容、自己の課題やめあて、各時間のポイントを意識して自主的に学習できるように学習資料の提示に配慮した。また、評価カードを併用し、生徒が自己評価により、自尊感情や自己肯定感を高められるよう工夫した。

## 5 今後の研究の方向性

本授業研究の成果については、現在、授業研究を実施している段階であり、分析を行っている状況である。今後は、生徒の「知識・技能の高まり」、「思考力、判断力、表現力の高まり」及び「自尊感情や自己肯定感の高まり」等の視点から、生徒の変容などをさらに調査・分析し、本研究の成果を検証していく予定である。

また、検証結果等の具体的な内容については、平成25年2月1日（金）に新宿区立コズミックセンターにおいて実施する「第49回研究発表会」で、研究のまとめと共に報告する。

全体主題「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける体育学習」

中学校主題「運動の特性や魅力に応じて楽しさや喜びを味わい、

自主的に実践する力を身に付ける体育学習」

分科会主題「運動の特性や魅力に応じて体を動かすことの楽しさや喜びを味わい、

自主的に運動やスポーツを実践しようとする態度を養う体育学習」

### 【目指す生徒像】

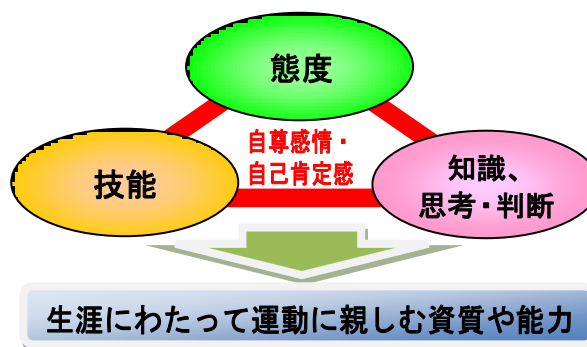
運動の特性や魅力に触れ、自主的に運動を実践しようとする態度を身に付けた生徒



### 【育成する力】

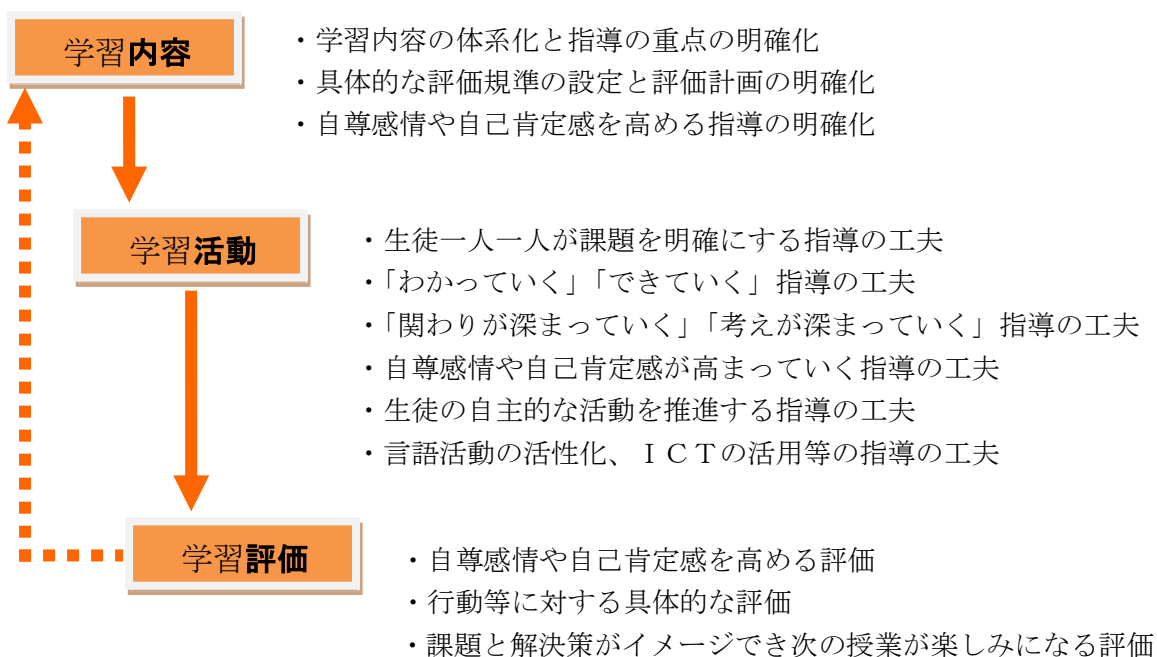
学習指導要領で示されている学習内容を身に付けるにあたっては、それぞれの関連を図った指導を重視する。

また、生徒の自尊感情や自己肯定感を高めることを視点とし、運動の特性や魅力に触れた楽しさを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成し、生徒の自主的に実践しようとする態度を養う。



### 【授業づくり】

指導と評価の一体化を目指し、学習内容、学習活動及び学習評価が一貫した流れの指導を行うとともに、学習評価が次の授業に結び付く授業づくりを行う。



## 保健体育科学習指導案

日 時 平成 24 年 11 月 8 日 第 5 校時  
 場 所 港区立御成門中学校 体育館  
 対 象 第 1 学年 A・B 組 女子 19 人  
 授業者 授業者 港区立御成門中学校  
 教諭 岡本 和隆

### 1 単元名 現代的なリズムのダンス

### 2 目 標

- ・ リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊る。
- ・ ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合い、分担した役割を果たし、健康・安全に気を配る。
- ・ ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を表現する。

### 3 評価規準

#### (1) 単元の評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	ダンスを豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ダンスの特性に応じて交流ができるよう、イメージをとらえた表現や踊りをするための動きを身に付けている。	ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解している。

#### (2) 具体的な評価規準

観点	具体的な評価規準
① 運動の 関心・ 意欲・ 態度	ア 気持ちよくリズムに乗る雰囲気をつくるために誰とでも気持ちよく活動した。(愛好的)
	イ 仲間とリズムの乗り方を認め合おうとしている。(公正)
	ウ リズムに乗るために仲間の学習を援助しようとしている。(協力)
	エ 分担した役割を果たそうとしている。(責任)
	オ 健康・安全に留意している。(健康・安全)

② 運動について の 思考・ 判断	ア 仲間とリズムに乗ることができる課題を設定している。(体の動かし方)
	イ 仲間と気持ちよくリズムに乗るためリズムに乗る方法を選んでいる。(運動の行い方)
	ウ 学習活動において安全上の留意点を当てはめている。(健康・安全)
	エ 交流の場面で、仲間の良い動きや表現などを指摘すること(運動実践につながる態度)
③ 運動の 技能	ア 簡単な繰り返しのリズムに乗って踊ることができる。(リズムに乗って全身で自由に踊る)
	イ 音楽の表現にあわせてリズムに乗ることができる。(まとまりを付けて踊る)
	ウ 仲間の動きに合わせて、手拍子をするなどリズムに乗ることができる。(発表や交流の様子)
④ 運動について の 知識・ 理解	ア 仲間とリズムを共有してリズムに乗ることが楽しい等、現代的なリズムのダンスの特性について言ったり書き出したりしている。(運動の特性や成り立ち)
	イ 仲間とリズムを合わせて動く、音に合わせてリズムに乗るなど、リズムの楽しい乗り方ことについて言ったり書き出したりしている。(行い方)
	ウ 現代的なリズムのダンスを行うことで、平衡性、筋持久力が高まることについて言ったり書き出したりしている。(関連して高まる体力)
	エ 短い動きや対立する動きを組み合わせるリズムに乗る、音楽の表現に合わせてリズムに乗る等、現代的なリズムのダンスの表現の仕方について言ったり書き出したりしている。(表現の仕方)

#### 4 指導観

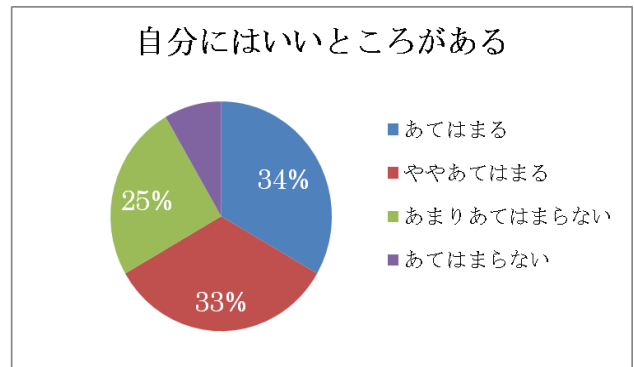
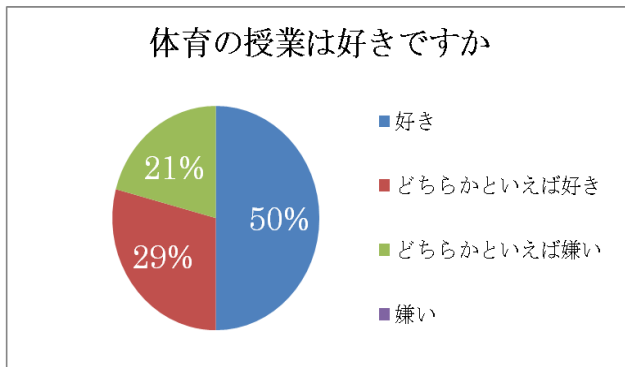
##### (1) 単元観

本単元は、リズムに乗って踊ることを通し仲間とのコミュニケーションを豊かにする運動であり、リズムの特徴をとらえて自己を表現する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。手拍子、足拍子、回る、転がる等の動きを組み合わせ素早く動いたり、止まったり等変化のある動きを組み合わせ踊る楽しさや喜びを一層広げていけると考えた。

また、第1学年では、特にリズムの特徴をとらえて踊る楽しさや喜びを味わわせるために自ら音をつくったり、リズム音で動きを作って踊ったり等、生徒の自主的な学習活動を促進することにより、ダンスに積極的に関わる態度を育成できると考えた。

##### (2) 生徒観

本校の1年女子は体育が好きと回答した生徒が79%であり、また体力については全国の平均程度であり、動くことが好きであるが、自分を表現することが苦手な傾向がある。自分に良いところがあると回答した生徒は、67%であり、3割以上の生徒に自尊感情や自己肯定観を高めていると考える。ダンスの学習においては、十分体を動かすこと、役割を与え達成感を持たせること、自ら考え表現することを取り入れ、全身を使って踊る楽しさや喜びを味わうことに重点を置く必要があると考えた。



### (3) 教材観

現代的なリズムのダンスの楽しさや喜びを味わうためには、リズムの特徴をとらえて全身で踊ることが最も重要である。このことから、学習活動を大きく「体で音を作って踊る」「リズム音に合わせてリズムに乗って踊る」「音楽に合わせてリズムに乗って踊る」の3つに分け、生徒に現代的なリズムのダンスの楽しさや喜びを味わわせる段階的な指導を行うこととした。

また、全体を通してICTを活用して、課題の明確や動きのイメージ化を図るとともに、自己評価・相互評価を充実させ生徒の自尊感情や自己肯定感を工夫した。

さらに、外部指導員の活用により、専門的な動きの指導やダンスの楽しさや喜びの広がりを生徒に体験させるとともに、専門家からの自尊感情や自己肯定感を高める評価により生徒の意欲の喚起や新たな課題発見につなげ、自主的にダンスと関わる態度を養うこととした。

#### ア 体で音を作って踊る段階

手や足等を使い、音を作ることや仲間とともに音をつなぐことを楽しむ指導を行う。

#### イ リズム音に合わせてリズムに乗って踊る段階

4拍を基本とするリズム音を使用し小グループで変化のある動きを作り、リズムに乗って踊る指導を行う。

#### ウ 音楽に合わせてリズムに乗って踊る段階

ビートがはっきりしている音楽を使用し、小グループでリズムの特徴をとらえ変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って全身で踊る指導を行う。

5 単元計画

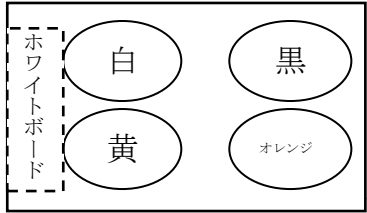
時間	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目(本時)	7時間目	8時間目	9時間目
	リズムに乗ることを楽しもう				リズムに乗ることを楽しんで、リズムの乗り方を工夫しよう				
0	○オリエンテーション	○グループ分け	○ウォームアップ ・人間知恵の働	○ウォームアップ ・人間知恵の働	○ウォームアップ ・シンコペーションゲーム	○ウォームアップ ・シンコペーションゲーム	○ウォームアップ ・シンコペーションゲーム	○ウォームアップ ・シンコペーションゲーム	○ウォームアップ ・シンコペーションゲーム
	○グループ分け ○ジェスチャー並び	○ウォームアップ 「気持ちいいリズムを待って」 「気持ちいいリズムを待って」	○スビートが違いうリズム 音に合わせて、リズム に乗る	○スビートが違いうリズム 音に合わせて、リズム に乗る	○スビートが違いうリズム 音に合わせて、リズム に乗る	○グループで好きな音 を選んでリズムに乗る。 「音楽のリズムの特徴、音楽の表現、 演奏ときは、誰の音が聞こえるか」	○グループで好きな音 を選んでリズムに乗る。	○グループで好きな音 を選んでリズムに乗る。	○グループで好きな音 を選んでリズムに乗る。
	○言うこと口やること △	○グループごとに体か ら出る音をつないでリ ズムに乗る。 「仲間と気持ちよくリズムを つなぐことができるかな」 「声をだしてつなぐことができ るかな(カサントを数える人終 わりの際、声を出す)」 ※置置置	○スビートが違いうリズム 音に合わせて、リズム に乗る ・前問作の4/4リズムのつなぎ方の リズムを思い出して、リズム に乗ることを楽しむ。 動き、スビートを一緒にする」 ※置置置	○スビートが違いうリズム 音に合わせて、リズム に乗る ・スビート変化させた曲を、CDに入れ てわかる。CDの曲調がレベル順に なっている。	○スビートが違いうリズム 音に合わせて、リズム に乗る。 ・スビート変化させた曲を、CDに入れ てわかる。CDの曲調がレベル順に なっている。	○発表会ではなく、リズムの 乗り方を参考にすることを ねらいとする。	○他のグループとお互 いのリズムの乗り方を 見せ合う。	○他のグループとお互 いのリズムの乗り方を 見せ合う。	○他のグループとお互 いのリズムの乗り方を 見せ合う。
	○ナー・安全につい て ・体験を通してナー・安全面を確認す る。 ※置置置	○自己紹介し算 方 を 考 え て リ ズ ム に 乗 る ○4拍のまじりてつなぐリズム に乗ることができかな?」 ※置置置	○音楽に合わせてリス ムに乗る。 「CDに入っている4曲の音楽に合わせ てリズムに乗ることができかな?」	○音楽に合わせてリス ムに乗る。 「CDに入っている4曲の音楽に合わせ てリズムに乗ることができかな?」	○リズムの乗り方を工 夫してリズムに乗る。	○リズムの乗り方を工 夫してリズムに乗る。	○リズムの乗り方を工 夫してリズムに乗る。	○リズムの乗り方を工 夫してリズムに乗る。	
	○音楽に合わせて自 己紹介し算をする。	○4拍のまじりてつなぐ 方で、リズム音を使っ てリズムに乗る。							
50	振り返り・学習カードの記入								
関	①-ア	①-オ	①-エ	①-ウ	①-イ	①-ア	①-ア	①-ア	①-ア
評		②-ウ			②-イ	②-イ	②-ア	②-ア	②-エ
価							③-ア・ウ		
思									
の									
重									
点	④-ア		④-ウ	④-イ			④-エ		
技									
知									

6 本時の指導 (6 時間目/10 時間)

(1) 本時のねらい

- ・ リズムに乗ることを楽しみ、リズムの乗り方を工夫する。
- ・ グループで互いのよさを認め合い、協力して踊る。

(2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価の観点と方法
導入	<p>○出欠確認、準備</p> <p>○本時の学習の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらい、流れ、ポイントの確認</li> </ul> <p>○W-UP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンクペーションゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席カードチェック (副リーダーより)</li> <li>・ゼッケン (用具)、CD デッキ (用具)、学習カード (記録)、グループカード (記録) を分担した役割でできるように</li> <li>・前時で学習したリズムの乗り方のポイントを復習できるように、映像と掲示物を利用する。</li> </ul> <p>(外部指導員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内の関係性がよくない白グループに入って、リズムに乗る楽しさが味わえる雰囲気作りをしてもらう。</li> </ul>	
展開	<p>○グループで好きな曲を選び動きを組み合わせる。</p>  <p>○他のグループとリズムに乗ることを教え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループと互いのリズムの乗り方を見せ合う。</li> </ul> <p>○教え合いを生かしてリズムに乗って楽しむ。</p>	<p>グループで曲を選んで、動きを組み合わせるリズムに乗ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声の出し方、体から出る音の出し方、リズムのつなぎ方などリズムに乗るためのポイントを意識できるように声をかける。</li> </ul> <p>(外部指導員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに乗ることができない難しい動きをしている場合はやさしい課題を提示してもらう。</li> </ul> <p>他のグループのリズムの乗り方を見て、リズムの乗り方を発見しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの乗り方を撮影し、どのようなリズムの乗り方であったかを見せ、リズムの乗り方が工夫できるように指導する。</li> </ul> <p>教え合いを生かしてリズムに乗って全身で踊って楽しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫するときも、リズムに乗りながら行うように指導する。</li> </ul> <p>(外部指導員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを表現できるように、楽器や声の特徴を示し、実際に動いてアイデアを出してもらう。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断&gt; 仲間と気持ちよくリズムに乗る方法を選んでいる。 (行動観察)</p> <p>&lt;関心・意欲・態度&gt; 仲間とリズムの乗り方を認め合おうとしている。 (行動観察)</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片づけを行う。</li> </ul> <p>○本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りを学習シートに記入する。</li> <li>・ゲストティーチャーと先生から本時の評価をもらう。</li> <li>・次時の内容を確認する。</li> </ul>	<p>リズムに乗るための行い方や工夫について確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習シートに、うまく記入できていない生徒には、ホワイトボードのポイントを確認させる。</li> </ul> <p>(外部指導員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と打ち合わせを行い、評価の内容をまとめ、生徒に助言する。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断&gt; 仲間と気持ちよくリズムに乗る方法を選んでいる。 (学習カード)</p>